



第26回

日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会

ランチョンセミナー 6

带状疱疹の治療 — 温故知新 —

2010年 **5月30日** **日**

12:10~13:00

ホテル グランパシフィック

LE DAIBA

D会場(ヴァンドーム)

〒135-8701 東京都港区台場2-6-1

TEL:03-5500-6711

東京慈恵会医科大学附属青戸病院
皮膚科 教授

座長 **本田 まりこ** 先生

腎機能低下患者への適正使用

聖隷三方原病院 皮膚科 部長

講演 **1**

白濱 茂穂 先生

ファムシクロビルの使用経験

取手協同病院 皮膚科 科長

講演 **2**

福山 國太郎 先生

講演 1 腎機能低下患者への適正使用

聖隷三方原病院 皮膚科 部長 **白濱 茂穂** 先生

高齢社会を反映して、带状疱疹の患者は増加傾向にあると思われる。治療には抗ヘルペスウイルス薬の投与を行うが、これらの薬剤は用量依存性の腎障害を引き起こす可能性がある。そのため、高齢者の場合、腎機能が低下していることを予測し、投与量を検討することが重要である。

带状疱疹の治療薬である塩酸バラシクロビルは、アシクロビルのプロドラッグで従来のアシクロビル内服薬よりも吸収性がよく、服薬回数も少なくすむため頻用されている。本剤における腎障害の機序は、腎尿細管におけるアシクロビルの結晶による閉塞が考えられている。アシクロビルは尿での溶解率は低く、腎臓内の濃度は血中より約10倍高いとされる。そのため、尿細管から集合管内で結晶化が起これば閉塞性腎障害をきたすと考えられている。腎障害発現時期は比較的早く、投与後24～48時間である。臨床症状としては、嘔気、側腹部痛、血尿などがあげられる。

腎障害の誘因としては脱水、既存の腎障害、腎毒性のある薬剤の併用がある。脱水状態ではアシクロビルの血中濃度のみでなく、尿中への排泄濃度が高まることにより腎障害を生じやすくなる。腎機能が正常であったとしても、食の少ない高齢者においては慎重に経過をみる必要がある。

带状疱疹の疼痛に対しては、鎮痛薬の併用が必要な場合が多い。非ステロイド系消炎鎮痛剤(NSAIDs)はアラキドン酸代謝経路でシクロオキシゲナーゼを阻害することにより、プロスタグランジン(PG)の産生を抑制し、抗炎症作用を示す。NSAIDsは腎臓においては、組織血流量を減少させるため、抗ヘルペスウイルス薬の腎臓での排泄を抑制させる可能性がある。带状疱疹の疼痛コントロールについては、特に高齢者では安全性に配慮し、アセトアミノフェンが推奨される。アセトアミノフェンはPGに作用しないため、NSAIDs投与に伴う消化器症状や腎障害、血液凝固阻害作用などの副作用が現れにくく、鎮痛剤の中では比較的安全性の高い薬剤であると考えられている。

高齢者における带状疱疹治療では、腎機能を正しく評価したうえで抗ヘルペスウイルス薬の用法・用量を決定する必要がある。しかし、血液検査の結果がすぐに得られない場合、どのように調整すべきかの判断に悩む医師も少なくない。しかし、高齢者では、抗ヘルペスウイルス薬の投与量を減量することを前提に、問診や尿量などからその程度を判断し、結果が遅れても血液検査を行う必要がある。また、脱水を避けるために、患者本人や家族に、服用時には十分な水分補給をするように指導することも重要である。

演者ご略歴

1981年	浜松医科大学医学部医学科卒業	1990年	沼津市立病院皮膚科医長
1985年	浜松医科大学大学院博士課程卒業 浜松医科大学附属病院助手	1992年	浜松医科大学皮膚科助手 浜松医科大学皮膚科講師
1986年	島田市民病院皮膚科医員	1998年	聖隷三方原病院皮膚科科長
1988年	浜松医科大学文部教官助手 米国スクリップス研究所留学	2002年	聖隷三方原病院皮膚科部長 現在に至る

講演2 ファムシクロビルの使用経験

取手協同病院 皮膚科 科長 **福山 國太郎** 先生

[背景]

当院は病床数410床の地域基幹病院である。当科における带状疱疹治療は、疼痛や皮疹がきわめて重症である場合、三叉神経領域の発症、膀胱直腸障害を伴うなど重症患者に対してはアシクロビル点滴を中心とした入院加療を基本にしているが、軽症から中等症、重症でも諸事情で入院不可能な場合など多くの患者は外来で内服治療している。带状疱疹痛に対する併用薬は非ステロイド系消炎鎮痛薬、ビタミンB12、三環系抗うつ薬、プレドニゾンなどである。

[対象]

2009年12月末までにファムシクロビルを使用した带状疱疹患者195名。

[方法]

カルテ上の記載から、患者背景、带状疱疹の罹患部位、発症から治療開始までの日数、疼痛治療薬の使用終了までの期間について調査した。

[結果]

年齢:12-92歳(平均60歳、中央値65歳)。性別:男性96名、女性99名。基礎疾患:悪性腫瘍18名、膠原病7名、糖尿病9名、CKD5名、喘息1名。皮疹出現から初診までの日数:5日以内134名、6日以上61名。罹患部位:頭部21名、顔面21名、上肢7名、体幹121名、下肢25名。腎障害などのためファムシクロビルを減量した患者:10名。带状疱疹関連痛に対する薬剤使用終了までの日数:1週間88名、1-4週間70名、1-3ヶ月25名、3-6ヶ月3名、6ヶ月以上9名。ファムシクロビルによる薬剤有害事象はなかった。

[まとめ]

軽症から中等症の带状疱疹患者に対してファムシクロビルは安全に使用でき、带状疱疹関連痛の経過も良好であった。

演者ご略歴

1997年 信州大学医学部卒業
東京医科歯科大学医学部皮膚科学教室入局
2002年 東京医科歯科大学皮膚科医員
2003年 東京医科歯科大学皮膚科助手
2005年 横須賀市立市民病院皮膚科医長

2006年 取手協同病院皮膚科科長
現在に至る

